

ARIBのからのお知らせ

LTE-Advancedの開発体制固まる
— 3GPP TSG-RAN議長にNTTドコモの中村氏が就任へ —

各地域標準化団体(日本からは社団法人電波産業会(ARIB)及び社団法人情報通信技術委員会(TTC)が参加)が構成パートナーとなり、第3世代移動通信方式の仕様策定と第4世代移動通信方式(IMT-Advanced注1))の技術検討を進めている国際標準化プロジェクトの3GPP注2)におきまして、このたび無線アクセスネットワーク技術仕様を担当する作業グループTSG-RAN注3)の議長にARIBの高度無線通信研究委員会の中村武宏IMT Partnership部会長(NTTドコモ)が選出され、3GPPにおけるLTE-Advanced注4)の開発体制が固まりました。

3GPPは1998年12月に設立されて以来、無線アクセス方式にW-CDMAを用いた第3世代移動通信方式の機能拡張とそれに伴う国際標準仕様のバージョンアップ作業を進めてきておりますが、最近の主な課題としては、第3世代移動通信方式の高度化システムとしてのいわゆる第3.9世代移動通信方式に相当するLTE/SAE注5)の仕様完成と第4世代移動通信方式の無線インタフェース技術に相当するLTE-Advancedの検討の促進があげられます。これまでに、LTE/SAEの仕様策定は順調に進み、本年3月時点で試験仕様を除く全仕様がほぼ完成しております。また、3GPPは、ITU-R注6)からの要請に応える形でITU-RへのIMT-Advancedの技術提案を行うことを決定し、LTE-Advancedという方式名で技術検討を順調に進めており、3GPPからITU-Rへの方式提案は提出期限の本年10月までになされる予定です。

このような状況の中、本年3月3日から6日にかけてフランスのビアリッツで開催されたTSG-RANにおいて議長及び副議長の改選が行われ、第3代目の議長にARIBの高度無線通信研究委員会IMT Partnership部会長である中村武宏氏(NTTドコモ)が無投票で選出されました。TSG-RANの初代議長の古谷之綱氏に続いて二度目の日本からの無線技術分野におけるリーダーシップの誕生ということであり、このことはひとえにこれまでのこの分野における日本の継続的な国際貢献が認められた証であると言えるでしょう。3GPPにおけるLTE-Advancedの開発はこの新たな体制のもとで今後推進されていくこととなります。

なお、今回選出された議長・副議長は本年4月に京都で開催されるPCG注7)会合において正式に就任する予定です(任期は2年)。

- 注1) 注1) IMT-Advancedとは、国際電気通信連合(ITU)における、IMT-2000の後継システムとしての第4世代移動通信方式の呼称。
- 注2) 3GPP(Third Generation Partnership Project)とはW-CDMAと、GSM発展形ネットワークを基本とした第3世代(3G)移動通信方式の仕様を策定する団体。1998年12月に米国のATIS、欧州のETSI、日本のARIB、TTC(情報通信技術委員会)、韓国のTTAにより設立。現在は、前記に加えて中国のCCSAも参加している。
- 注3) TSG-RAN(Technical Specification Group - Radio Access Network)とは、第3世代移動通信方式における無線アクセスネットワークの機能、要求性能、インタフェースの定義を所掌する3GPPの作業班。
- 注4) LTE-Advancedとは、3GPPにおいて第4世代移動通信方式の候補として検討されているLTEの次期方式。
- 注5) LTEとはLong Term Evolutionの略で3.9G向け無線インタフェース技術、SAEとはSystem Architecture Evolutionの略でLTEアクセスを収容するコアネットワークのアーキテクチャの意。
- 注6) ITU-R(International Telecommunication Union Radiocommunication Sector)とは、国連の専門機関である、国際電気通信連合(ITU)の無線通信部門。
- 注7) PCG(Project Coordination Group)とは、3GPPにおいてTSGの上に設けられているグループで、プロジェクト全体の運営、TSG間における問題の調整を所掌する。

<問い合わせ先>
 社団法人電波産業会
 研究開発本部
 移動通信グループ
 広池、白石
 Tel : 03-5510-8594
 Fax: 03-3592-1103

ARIB標準規格の英語翻訳版の電子ファイルの提供について

平成20年4月21日からARIB標準規格及び技術資料の電子ファイルをARIBのWebサイトに掲載し、閲覧・ダウンロードができるようになりました。

平成20年11月11日発行のARIB News No.665において追加掲載した英語翻訳版の電子ファイルに加え、その後新たに掲載された英語翻訳版の電子ファイルを以下に紹介します。

No.	規格番号	版数	規格名称
1	STD-28	5.3-E	PERSONAL HANDY PHONE SYSTEM ARIB STANDARD
2	STD-T91	1.1-E	UWB (ULTRA-WIDEBAND) RADIO SYSTEMS
3	STD-B10	4.6-E2	Service Information for Digital Broadcasting System

(注:「英語翻訳版」は、標準規格又は技術資料の正本から英語に翻訳されたものであることを示します。正本と翻訳版との間に内容、表現等に何らかの相違点があった場合は、正本を優先します。)

ARIBの動き

「電波の安全性に関する説明会」を開催

3月2日に総務省関東総合通信局及び当会の主催による「電波の安全性に関する説明会」を北とぴあ飛鳥ホール(東京都北区王子)において開催しました。

本説明会は、電波の安全性に関する基礎知識及び最新の研究成果を政策担当者、研究者等から講演いただくことにより一般の方々に周知するために、各地域の総合通信局との共催で開催しており、本年度は4地域の総合通信局と共催で説明会を開催しています。

今回の説明会では、総務省関東総合通信局長の岡山淳様から主催者挨拶をいただいた後、3名の講師の方から電波利用環境の整備のための施策及び電波の安全性について、行政、工学及び医学のそれぞれの観点から、一般の方に大変わかりやすいご講演をいただきました。

定員の250名近くのご来場があり、行政、研究内容に対する質疑応答がありました。

講演内容

- 講演1 「電波の人体への影響に対する総務省の取組みについて」
総務省 総合通信基盤局 電波部 電波環境課長補佐 島田淳一 氏
- 講演2 「安心できる電波利用のための生体影響研究」
北海道大学大学院 情報科学研究科 教授 野島俊雄 氏
- 講演3 「電磁波の成人と乳幼児への影響に関する実験的研究」
名古屋市立大学大学院 医学研究科 教授 白井智之 氏

第149回業務委員会を開催

第149回業務委員会を開催しましたので、その概要をお知らせします。

- 1 日時：平成21年3月11日(水)午後2時から3時50分まで
- 2 場所：当会第2会議室
- 3 議事概要

次の事項について事務局から報告、説明等がありました。

- (1) 3GPPsの最近の動向について
- (2) LTEセミナーの開催について

- (3) モバイルITフォーラム (mITF) の解散について
- (4) 「ICTビジョン懇談会」緊急提言について
- (5) 国への要望書について
- (6) iSIPc (ICT標準化・知財センター) の現状について

電気通信・放送行政の動き

「ICTビジョン懇談会」緊急提言 (平成21年2月23日の情報通信報道資料から)

ICTビジョン懇談会(座長:岡素之住友商事株式会社代表取締役会長、昨年10月から開催)より、総務大臣に対して、緊急提言が行われたので、公表します。

「ICTビジョン懇談会」では、昨年10月以降、今後のICT(情報通信技術)市場の構造変化等を展望し、2015年頃を視野に入れた総合的なICT政策の方向性(ビジョン)について、3月中旬の中間取りまとめ、6月の最終取りまとめを目指し、検討が進められています。

このような中、現下の経済情勢に対処すべく政府が取りまとめを進めている新たな成長戦略策定に貢献するためにも、ICT産業を新たな成長戦略の柱に位置付けるべく、ICTビジョン懇談会より総務大臣に対し緊急提言(別紙)が行われましたので、公表いたします。

(別紙 http://www.soumu.go.jp/s-news/2009/pdf/090223_6_bs.pdf)

詳細は、<http://www.soumu.go.jp/s-news/2009/090223_6.html>をご参照下さい。

編集後記

今回もデータベースのAccessネタです。

ARIBの企画国際部、ICT国際協力部、総務部で共有して使用しているAccessのデータベースに改善が必要になったのですが、某氏が修正を小職に依頼(要求?)してきました。

そもそも担当外の仕事であり、修正が難しすぎるため、断ったのですが、「クエリ、レポートの作成にチャレンジしてみたところ、意外なほど簡単にできたとARIBニュースに書いたでしょう。」と言われ(レベルが全く違うのですが)、さらに、「こうすれば容易に修正できるはず。」とアイデア提供があったため、修正に取り組むことにしました。

ところが、実際に取りかかってみると、データベースのレポート、クエリ及びテーブルの関連が複雑で修正箇所が非常に多く、また、修正手段がわからず、

参考書で調べなければならない内容があったため、結局、1日がかりの大変な作業になりました。

やはりAccessは奥が深く難しいことを再認識しましたが、結果的にAccessの知識が増えたことは収穫であったと思います。

(編集子:PAO)

[ページの先頭に戻る ▲](#)